

乳房検査について

乳がんは女性がかかるがんの第1位で、現在、日本人女性の9人に1人が生涯の間に乳がんにかかると言われていています。しかし早期に発見すれば、決して恐くはないがんです。ぜひ乳房検査をご検討下さい。

①マンモグラフィ（乳房X線撮影）検査

乳がん検診の基本となる検査です。

乳房を引き出して板の間に挟み、圧迫して薄く伸ばして乳房全体を撮影します。

左右の乳房をそれぞれ撮影します。内外斜位方向と頭尾方向の2方向の撮影があります。

乳がんのしこりだけでなく、しこりになる前の石灰化やしこりを作らないタイプの乳がんも見つかることがあります。

日本乳がん検診精度管理中央機構（精中機構）認定の女性診療放射線技師が撮影し、精中機構マンモグラフィ読影認定の医師が診断します。

閉経前の方は、月経終了後から1週間後くらいまでの間の乳房の柔らかい時期の検査がおすすめです。

②乳房超音波（エコー）検査

乳房にゼリーを塗って超音波をあてて、内部からの反射波を画像にして、病変の有無を調べます。マンモグラフィと併せて行うことで、より乳がんを見つけやすくなり、正確な診断を行うことができます。

精中機構超音波検査実施認定の女性臨床検査技師が検査を担当し、精中機構超音波検査実施判定認定の医師が診断します。

高濃度乳房（乳房の中の乳腺が多く、マンモグラフィで乳房が白く写るタイプの乳房）の方は、マンモグラフィで乳がんがわかりにくいことがあり、乳房超音波検査も併せておこなうことをおすすめします。

※Q&A

マンモグラフィとエコー、どちらで検査するのがいいですか？

乳がん検診の基本はマンモグラフィです。ただし、マンモグラフィとエコーでは、見つけやすい病変の種類が異なっており、どちらかでしか発見できない乳がんもあります。両方を行う事で、より正確な診断が可能となります。

乳房検査の一例

20歳代	30歳代	エコー
40歳代	50歳代	マンモグラフィ+エコー
60歳代以上	高濃度乳房	マンモグラフィ+エコー
	高濃度乳房以外	マンモグラフィ